

10pt/17pt

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

9pt/16pt

『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

16pt/24pt 字間ツメ

LAからやって来た、
きっかないな絵を描くアーティスト、
ゲイリー・パンターのライブ・ペインティング

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きしていてギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークの RAW BOOKS から出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた「ライブ・ペインティング」。

18pt/26pt 字間ツメ

LAからやって来た、 きっかない絵を描くアーティスト、 ゲイリー・パンターの ライブ・ペインティング

10pt/17pt 字間ツメ

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた「ライブ・ペインティング」。

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

「どういうものを描くか混沌としていて、クリアでなかったため、こういう形になった」（ゲイリー談）そうで、全体をまとめるに苦労したのかも。

最初、黒で1時間以上描きこんでから、朱、緑、黄、白で彩色、全体を2時間で描き上げた。この色について後で観客から質問が出たが、ゲイリーは「公の場で描くことは、見ている人たちの時間に責任を負うこと。退屈なものを作りたくないの、色に関しても強くて明るくてシンプルなものを選んだ」と説明している。

9pt/16pt 字間ツメ

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きしていてギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

イアン・マクレガンやフランク・ザッパのレコードジャケットとか、『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークの RAW BOOKS から出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

10pt/17pt

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きして、ギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

イアン・マクレガンやフランク・ザッパのレコードジャケットとか、『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークの RAW BOOKS から出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた「ライブ・ペインティング」。

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

9pt/16pt

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた“ライブ・ペインティング”。

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

「どういうものを描くか混沌としていて、クリアでなかったため、こういう形になった」（ゲイリー談）そうで、全体をまとめるに苦労したのかも。

最初、黒で1時間以上描きこんでから、朱、緑、黄、白で彩色、全体を2時間で描き上げた。この色について後で観客から質問が出たが、ゲイリーは「公の場で描くことは、見ている人たちの時間に責任を負うこと。退屈なものを作りたくないの、色に関しても強くて明るくてシンプルなものを選んだ」と説明している。

16pt/24pt 字間ツメ

LAからやって来た、
きっかないな絵を描くアーティスト、
ゲイリー・パンターのライブ・ペインティング

18pt/26pt 字間ツメ

LAからやって来た、 きっかないな絵を描くアーティスト、 ゲイリー・パンターの ライブ・ペインティング

9pt/16pt 字間ツメ

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きして、ギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

イアン・マクレガンやフランク・ザッパのレコードジャケットとか、『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークの RAW BOOKS から出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

10pt/17pt 字間ツメ

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた“ライブ・ペインティング”。

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

「どういうものを描くか混沌としていて、クリアでなかったため、こういう形になった」（ゲイリー談）そうで、全体をまとめるに苦労したのかも。

最初、黒で1時間以上描きこんでから、朱、緑、黄、白で彩色、全体を2時間で描き上げた。この色について後で観客から質問が出たが、ゲイリーは「公の場で描くことは、見ている人たちの時間に責任を負うこと。退屈なものを作りたくないの、色に関しても強くて明るくてシンプルなものを選んだ」と説明している。

11pt/19pt

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークのRAW BOOKSから出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた「ライブ・ペインティング」。

10pt/17pt

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きしていてギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

イアン・マクレガンやフランク・ザッパのレコードジャケットとか、『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

17pt/26pt 字間ツメ

LAからやって来た、
きっかないな絵を描くアーティスト、
ゲイリー・パンターのライブ・ペインティング

19pt/29pt 字間ツメ

LAからやって来た、
きっかないな絵を描くアーティスト、
ゲイリー・パンターの
ライブ・ペインティング

11pt/18pt 字間ツメ

そのコミック『JIMBO』は、作品集としてニューヨークのRAW BOOKSから出版され、日本版も今年1月、松文社から出た。

それに続いて『ギャラリー・オーバーアート』での作品展、そして来日ということに相成ったわけだ。今回の来日の目玉は、2m×5mの大キャンバスにその場で描いちゃうという、池袋西武のスタジオ200で行われた“ライブ・ペインティング”。

はじめ慎重に構図を決めている姿は意外だったが、時が経つにつれて、大胆な筆遣いになってきて、最後には手を使ったり、筆ではねを飛ばす手法まで飛び出す始末。

「どういうものを描くか混沌としていて、クリアでなかったため、こういう形になった」(ゲイリー談) そうで、全体をまとめるに苦労したのかも。

10pt/17pt 字間ツメ

落書きのキース・ヘリングがニューヨークに帰ったと思ったら、今度はロサンジェルスから、パンク・コミックのゲイリー・パンターがやってきて、大いに刺激を与えてくれた。

キースは地下鉄のアドボードに落書きしていてギャラリーがついたということだが、ゲイリーの方は、プロのイラストレーターとしてけっこう仕事をしているようだ。

イアン・マクレガンやフランク・ザッパのレコードジャケットとか、『タイム』誌のカバーまで手がける一方、パンク・ロック・マガジン『SLASH』にコミックを連載。

U 40pt 字間ツメ U 28pt

少年よ、大志を抱け
Boys Be Ambitious.

H 36pt/42pt 字間ツメ

人は水と米があれば
生きていける。

H 30pt/40pt 字間ツメ

うるおいのある暮らしで
人生設計をより豊かに

B 28pt 字間ツメ

近頃、お肌が気になりますか？

B 26pt 字間ツメ

心が健康なら、すべてうまくゆく

M 24pt 字間ツメ

野菜を摂るならサラダより温野菜で

U 18pt/24pt 字間ツメ

人間はいつまでも
“不自由”である。

B 36pt/44pt 字間ツメ

100年後の未来を
想像できますか？

H 17pt 字間ツメ

クォリティを追求したらこうなりました。

M 42pt/50pt 字間ツメ

捨てない生活、
浄化する街へ。

H 22pt

B 32pt/42pt 字間ツメ

呼吸しているのは
人間だけではない。
森がすべてを変える